



# 原発事故による放射能汚染の 広がりにへの予測と対処を 真剣に行うべきと訴える!!

## 河野としのり県議

福島原発事故で放出した放射線総量はウラン換算で広島原爆の20個分、セシウム137の放出量では168個分の大量なものです。その拡散を群馬大学の早川教授の広域の放射線量地図の最新版に汚染ルートを入れて示します。図

島第一原発から三方向に広がり、3月21日の汚染拡散によって、柏、松戸、流山市等に飛び地的なホットスポットが発生しました。そこは相馬やいわきとほぼ同じ毎時1マ

イクロシーベルトです。放射性物質の飛散は決して同心円的な均等な広がりではなく、風向きにより、また水を吸い上げたかにより大きく変わり、遠くまで食い込んで拡散して行きます。丁度チェルノブイリ事故の時二百五十キロ離れたクラスノポリエという町が

人の摂取制限の三百ベクレルを気に超え、22日もキロ当たり33ベクレルが企業団によって確かめられています。原発の事故の後、インターネットなどからは「なるべく外に出ないように」とか、「肌」に直接雨が当たらないようにとか、「様々な情報が流れま



「放射線量の高いゴミ焼却灰をドラム缶に入れて保管するゴミ焼却施設を視察する河野としのり県議」



柏クリーンセンターにて



「放射線量の濃淡と汚染ルートを議場で説明する河野としのり県議」

ルノブイリ事故の時二百五十キロ離れたクラスノポリエという町が雨で汚染被爆し今も立ち入り禁止区域となっているのと同じです。二百五十キロという今回は横浜も含まれます。北千葉広域水道企業団の取水口でも放射性ヨウ素は3月21日の雨と共に乳児の摂取制限である「1キロ当たり百ベクレル」どころか大

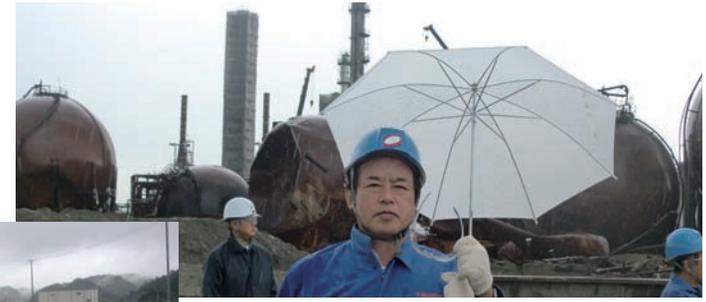
変動を把握するため、モニタリングでは、大気中の放射線量の

放射線量の高い、松戸、柏、流山、我孫子市などの関係するゴミ焼却施設の焼却灰の最近の放射性物質の値と、保管処分の状況はどうか。



野田新総理に、原発事故の放射能性物質の除染と監視、更に巨大地震による津波と液状化対策の推進を要望する。

→ 復旧・復興特別委員会にてコンビナートを視察  
コスモ石油タンク大火災の後の事故現場をつぶさに見る  
河野としのり県議



↑三陸の宮古市田老町  
有名な田老の防潮堤の内側も津波が押し寄せ、何も無くなった街を視察する  
河野としのり県議

### 河野としのりプロフィール

- 昭和48年 早稲田大学理工学部卒
- 50年 早稲田大学大学院修士課程修了
- 同年 東洋エンジニアリング株式会社入社
- 平成7年 千葉県議会議員初当選
- 16年 千葉県監査委員
- 17年 防災対策委員
- 20年 党県連幹事長
- 23年 千葉県議会議員5期当選
- 現在 党県議会の議員会長